

新・ケミカルリサイクル

電炉CCS法のサービス紹介

株式会社サティスファクトリー



社会を100年先に繋ぐ

Satisfactory



電炉CCS法：

Carbon Capture Storage

廃プラスチックを加工して、炭素源となる加炭材を製造。
従来の製鋼過程で使われるコークス(石炭)を代替し、
加炭材から鉄に炭素が取り込まれる仕組み。

01

リサイクル困難物に
対応できる

- プラスチック中の炭素を鉄に取り込むので種類や形状は問わない
- 多少の無機物が混ざっても、スラグから回収できる

02

プラ新法対策
となる

- 多量排出事業者の努力義務対応
(目標設定→取組→情報公表)

03

事業活動の
環境負荷を低減できる

- リサイクル率(再資源化率)の向上
↳炭素固定するため脱炭素につながる



マテリアルリサイクル 出来なかった物

- 食品包材
(複層、塩素の高い)
- 汚れプラ
(シール、ほこり、油、接着剤)
- PVCの品目各
- 複合素材
- 単一素材だが少量の物

処理困難物

- CFRP(釣竿、車体、航空素材)
- FRP(浴槽、ヘルメット)
- 長尺(床材、タイダウンベルト、ブルーシート、農業用ビニール)
- トナーカートリッジ
- ボーリング玉、ボーリングレーン
- ビデオテープ
- 携帯電話
- 太陽光パネル
- 機密書類

熱硬化性樹脂

- 電子基盤
- アクリルパネル
- 車のエンジン回りの部品

混合廃棄物

- 電化製品
- カーペット
- ケーブル
- ボタンやファスナー付の衣類

特定プラ製品

- カトラリー
- アメニティ
- 剃刀

禁忌品: 銅・鉛・硫黄

廃プラの種類・素材に制約なし

このような物も対象に出来ます①



このような物も対象に出来ます②



このような物も対象に出来ます③





7

拠点

稼働中

稼働中

栃木県／埼玉県／神奈川県／
和歌山県(3拠点)／
滋賀県

13

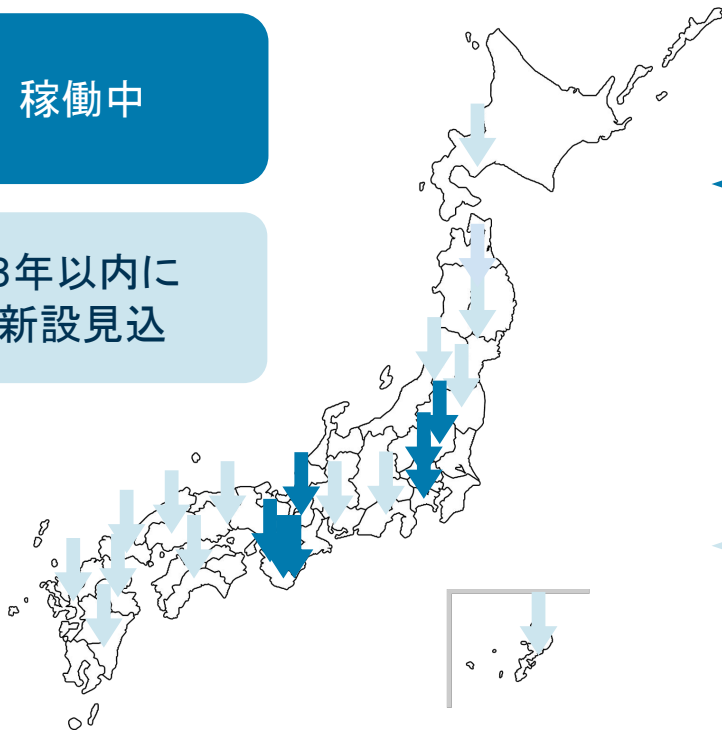
拠点

3年以内に
新設見込

新設
見込

静岡県、山口県、広島県
北海道*／東北地方／愛知県*／中部地
方／北陸／四国地方／
九州地方*／大分県／沖縄県

* 交渉中





排出量：
最低1トン~/回



頻度：
制限なし



大きさ：
車両運搬が出来るもの

性状・荷姿の注意点：



- ・バラ
プレス品が望ましい
- ・食品残渣付き
処理場毎に基準が異なるため要確認
- ・建築廃材
がれきを除く



- ・廃液・廃油
湿っている程度なら受け入れ可能
- ・水に溶けて性状が変容するもの
顔料等、処理場毎に基準が異なるため要確認
- ・引火性粉体
その他粉体は要相談



CASE
01

廃プラスチック
(PET、PVDC)

化学メーカー

愛知

120～130トン*／月

*週4回収

CASE
02

PTPシート

医薬品メーカー

京都・兵庫・埼玉・三重

30～50トン／月

CASE
03

炭素繊維
CFRP

繊維

兵庫・愛知・石川・滋賀

5トン／月





イニシャルコスト

導入に関するサポート業務+処理場見学案内

200,000 円(税別)

+

ランニングコスト

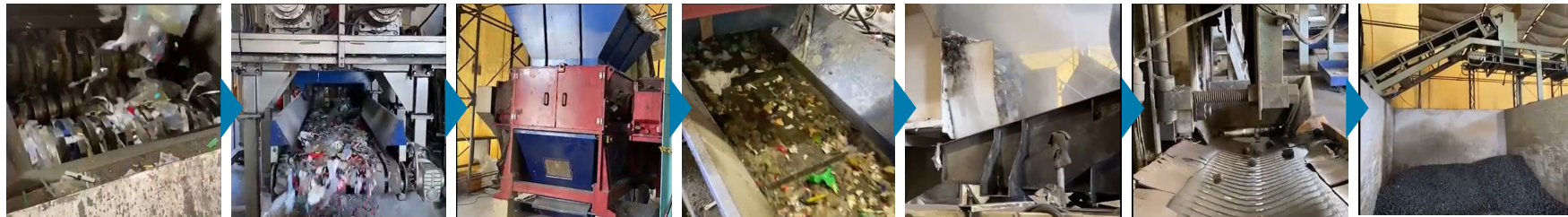
運用管理費用および処理費用

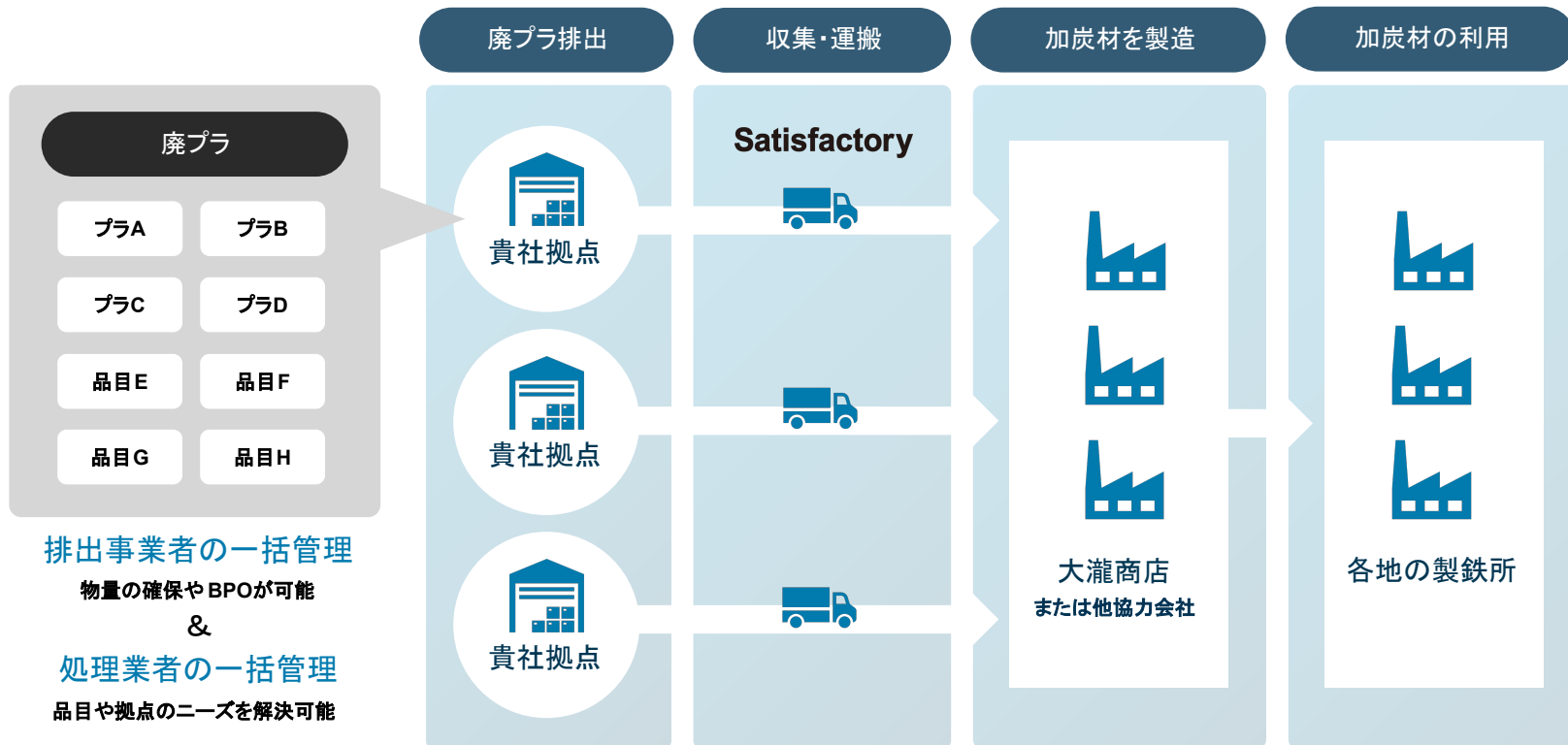
御見積で提示

工場案内ツアー

半日(ご契約の場合はイニシャルコストに含む)

100,000 円(税別)





(電子マニフェストでの運用が前提)

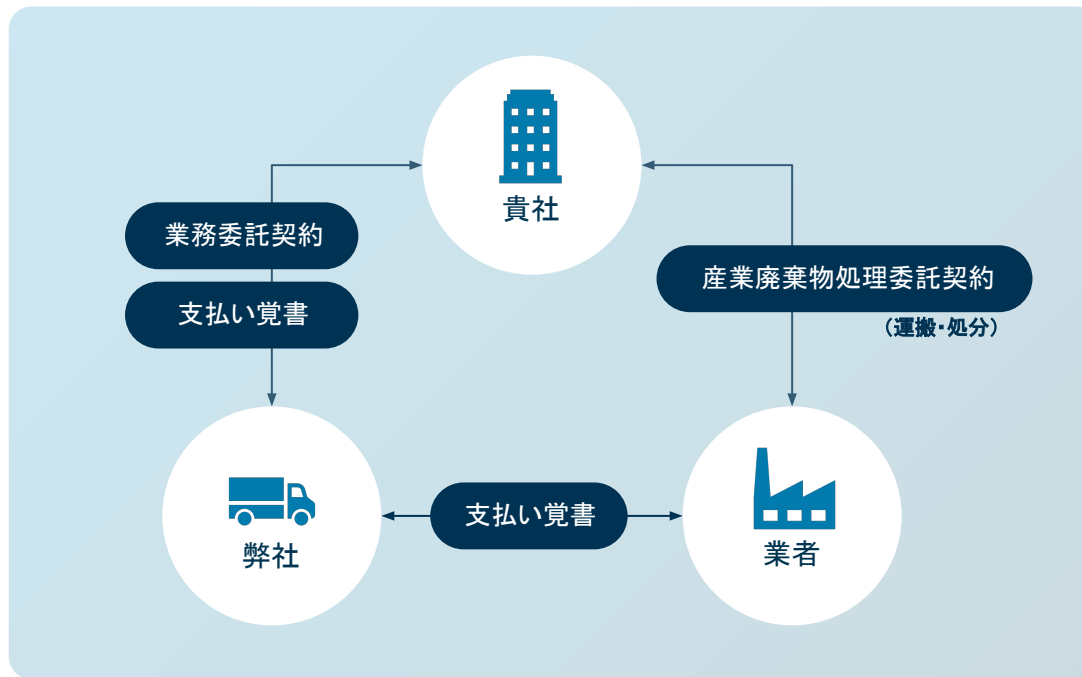
排出事業者の一括管理

物量の確保やBPOが可能

&

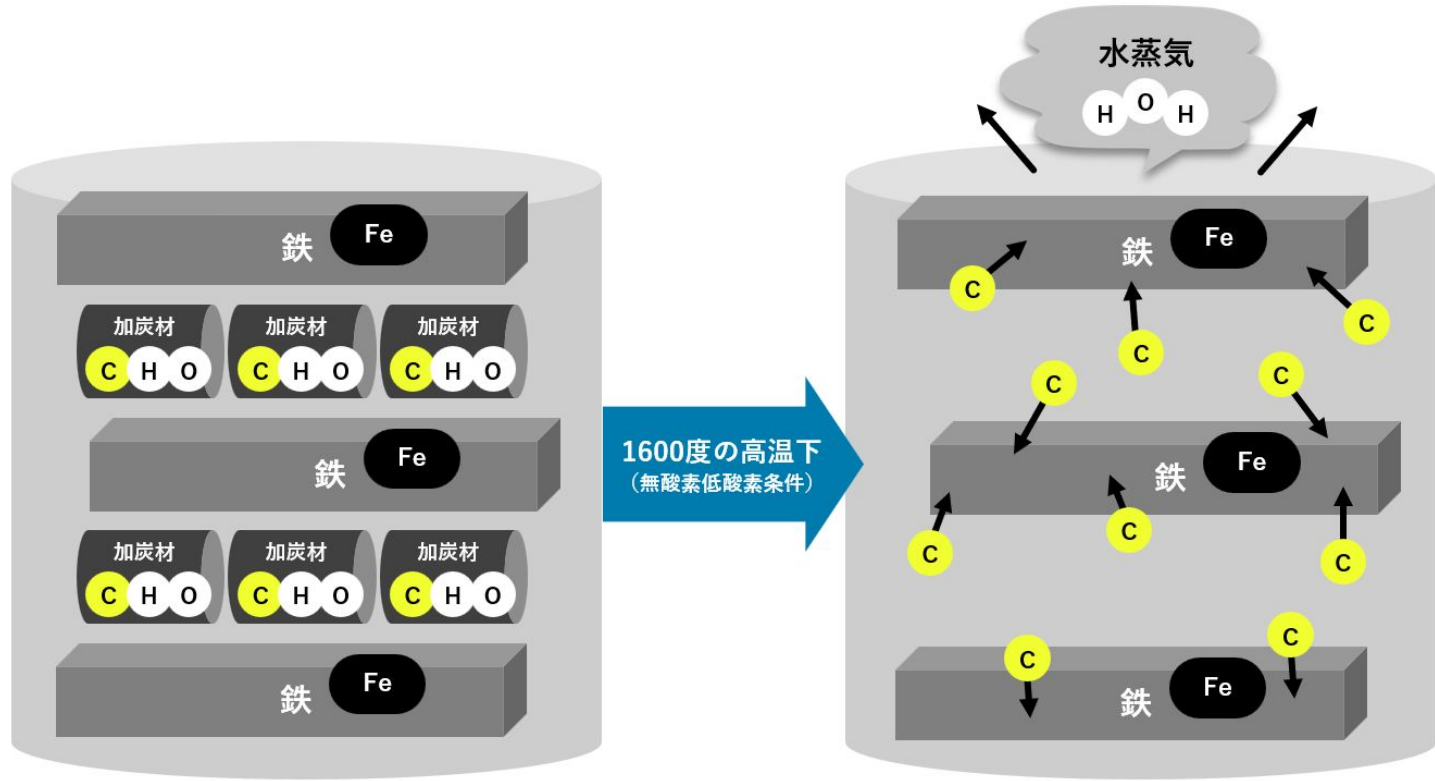
処理業者の一括管理

品目や拠点のニーズを解決可能



(電子マニフェストでの運用が前提)

Appendix



加炭材と同様に、プラもC・H・Oから構成されている



再資源化 の定義

【プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律(プラ新法)】

5 この法律において「再資源化」とは、使用済プラスチック使用製品又はプラスチック副産物(次項及び第四条第三項において「使用済プラスチック使用製品等」という。)の全部又は一部を部品又は原材料その他製品の一部として利用することができる状態にすることをいう

ケミカル リサイクルの 定義

【ISO15270: 3.14 feedstock recycling (ケミカルリサイクル)】

conversion to monomer or production of new raw materials by changing the chemical structure of plastics waste through cracking, gasification or depolymerization, excluding energy recovery and incineration (分解、ガス化、脱重合によってプラスチック廃棄物の化学構造を変化させ、モノマーに変換したり新たな原料を生産したりすること。ただしエネルギー回収や焼却を除く。)

「鋼の原材料」として、プラを分解して取り出した「炭素」を有効利用する